（別紙4）　　平成　22　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2190200077		
法人名	合同会社　聖恵会		
事業所名	恵みハウス		
所在地	岐阜県関市大平台14番5号		
自己評価作成日	平成23年　3月18日	評価結果市町村受理日	平成24年　3月　6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2190200077&SCD=320&PCD=21

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　中部社会福祉第三者評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566－1
訪問調査日	平成23年　4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設然とした堅苦しい雰囲気を払拭して、家族のような触れあいができる温かさの構築を目指している。重度の方への安否確認や食事介助なども、職員の手が足りないときなどは率先して同じ入居者さんが手伝ってくださったり、不穏な方への落ち着きを促す言葉かけなど、それぞれが立場を具現して助け合いをしている。

また、クリニックが併設しているので、医師をはじめとする医療スタッフにより、 健康管理には万全を来たしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

養護教員（看護師）であった管理者が、息子の医師（法人理事長）と開設したグループホームであり、小規模多機能事業所を併設している。自ら介護事業所を立ち上げるに至った経緯は、脳梗塞と脳出血によって身体機能の自由を失った夫（父親）への壮絶な介護との戦いの果ての決断であった。

寝たきりの利用者のために、併設の小規模多機能事業所の機会浴槽を借用したり、条件が合えばイベントを共催したりと、相互に助け合った連携も見られる。

同一敷地内に併設されているクリニックからは、いつでも医師が迅速に対応できる環境である。希望者は、マッサージを受けることも可能である。重度化した利用者へは、安楽な介護を心がけて精神的・肉体的にも負担なく生活できるように、居室の配置にも気を配っている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼の場に掲示して目に触れるようにしているが、まだ開設1年と日数も浅いことから、理念を実践できているのかという実体験感が薄い。確認できる場の工夫が必要と感じる。	「思いやり」と「愛」を柱とした理念を持ってケアに当たっている。職員だけでなく、利用者や家族にも理念の周知を図るべく、パンフレットや「聖恵会だより」にも理念の掲載がある。	理念を大切にし、理念に沿った支援を忠実に実践しようとする姿勢は随所に感じられた。あとは、理念の実現度を測る指標の工夫がほしい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	清掃活動やサロン・講習会、サギ帳などの行事への参加など、職員の活動としては事業所全体で交流しているが、利用者さんを含めたこととなると難しい。中学生の職場体験での交流はあった。	地域の行事へ参加するなど、ホームから地域へ出向いた活動をしている。運営者は、地域との関係を密接にしたいという意欲がある。	ホーム周辺地域が高齢化していくにつれ、ホームの役割はさらに必要とされるであろう。異世代交流できる場の提供など、ホームの持つ機能を地域へ還元する取り組みに期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員の方の積極的なサロンや講会への呼び掛けをいただき、医師や施設長、ケアマネが、病態や生活偏重や予防および施設の利用メリットや方法などを伝えることをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多方面の協力を得て充実した会議になっている。家族からの感想や要望も聞かれ、施設が対応に苦慮した場合、各専門職からの教示や支援の提示があって救われている。	運営推進会議は、併設の小規模多機能型との共催形式で開かれている。開設以来3ヶ月毎の開催であり、規定通りの開催とはなっていないが、多彩な会議メンバーの参加を得て、有効な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何をどれだけでもって「密」とするかが分からないが、必要なことは全て相談し、届出・報告も行なっている。	運営推進会議へ市町村担当者が毎回参加している。会議を通じて関係性が深まっている。また、介護保険制度の不明な点を質問するなど、市町村へ相談することも多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	脱出行による行方不明になりかけた事例から、玄関の施錠はしている。直接身体拘束はゼロではない。職員配置の手薄なときの車いすからの立ちあがり防止のための固定を行うことがある。	単独外出があり、事故の危険も考慮して玄関を施錠している。身体拘束についての研修の開催は不定期であり、運営者の思いや知識が全ての職員に十分に理解されているとはいえない面もある。	身体拘束については、職員が同じ知識を得なければ実践できないであろう。ホーム内研修などを開き、事例を検討するなどの取り組みが必要であると考える。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待については、完全に運営理念に背くことであり、職業倫理にも抵触することであることは全員が確認し防止に努めている。職員のストレスが蓄積しないよう、まずは休日の充実に配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開設1年であり、そうした制度を知る必要性に遭遇していないので話題にもなっていないが、代表者自らが後見人でもあり、必要があればすぐに学ぶ機会を持つことは可能である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に行えていると思っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口を記載し、契約の際には十分な説明を行っているので、現に要望等をいろいろ聞かさせていただいている。	家族アンケートからは、「職員が皆温かい、とても感謝している。」との声が大半であった。運営推進会議に家族参加も多く、家族の声を聞く機会が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職掌の中で、意見要望を吸い上げる体制にしている。各職員が立場を理解して協調しようとする意欲は感じている。	外国人の職員とコミュニケーションを多く図り、同じ意識を持ち支援することができるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者がスタッフの1人としてシフトに入って勤務しているので、職員の気持ちや状態等を常に把握しており、幹部会にもよく提議されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設1年であり、運営を軌道に乗せることが精いっぱいであったが、次年度予算案では、資質向上に向けた全員分の研修予定が組めているので、それらの実現に努めたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設1年であり、運営を軌道に乗せることが精いっぱいであったが、必要性の認識はあるので、まずは、呼び掛けられれば精力的にお応えする思いでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ロケーションギャップに陥らないよう、入居時には特に新しい環境に馴染んでいただけるような努力と、スタッフを知っていただく努力に細心注意を払っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人には聞かれたくないような家族側の都合等も聞かせていただけるよう、雰囲気づくりに注意を払っている。本音の部分を把握して信頼関係づくりに努めていきたいと考える。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでは、他のサービス利用には実費が関わってくるので、日常生活費を預かり、食事会や理美容代金、日用品購入などの必要事項に充てている。管理費は無料。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	特に言葉については尊敬語や丁寧語を使いたいとするが、通じないそれであっては他人行儀となるので、各々の生い立ちや生活環境で培われたコミュニケーションの方法を見極めて接する必要を全職員で確認している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外食への誘いや季節ものの交換、または冠婚葬祭への出席継続などを家族に依頼し、家族やそれまでの人生とのつながりを確保していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族であっても把握が難しく、また訊ねてもすでに居られなかったり忘れられたりされてる年齢であることなので、施設では支援し切れないことが多く、検討課題となる現状。	自宅の畑に連れていく、友人が訪ねてくるなど、利用者個々に対応している。ホームで可能な範囲の対応をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	言葉づかいや共同使用の施設・備品の扱いや身体能力の高低などでのいさかいが多いが、職員が間に入って調整に努めている。恋愛(性的)関係への対応が非常に難しい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の家族へ「生活保護」の申請についてお教えしたことがあった。必要に応じての支援に門戸を閉ざすことはない。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	身体能力や認知自立度に相応以上なニーズが多く、応えることが難しいが、傾聴はしていて、それで納得されることもまた多い。	日々の支援の中で聞き取ったり感じ取った利用者の意向は、「申し送りノート」に記録して職員間の周知を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの話や前任のケアマネからの情報提供を受け把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の朝礼での申し送りや連絡ノート及び介護録で伝え合い、全体で把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	直接の話し合いをする時間が職員間においては互いの服務によるすれ違いから出来きれていないが、良い意見や考えが埋もれている可能性が高いので、機会を持つ必要性は感じている。	計画作成担当者が主体となって、計画を作成している。家族からの意見も取り入れたケアプランの作成に取り組んでいる。	介護の主人公でもある利用者の意見を取り入れることで、本人の希望が明確になるであろう。利用者の意向をケアプランに記載することを提案する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	帳票の充実は図っているものの、有機的に連携させて活用するまでには至っていない。直接の話し合いをする時間の確保が今後の課題と認識している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できることはなんでもやってみようとする姿勢で日々の生活支援を実践している。家族が行けないときの受診や理美容、喫茶店や日用個人雑貨の買い物などにも公用車で出かけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活発な外部への関わり方をまだ確立していないこともあって、積極的な地域資源の把握および活用はできていない。何らかの楽しみを持っていただくためにも、今後、それらの作業は必要と考えてはいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設のクリニックが基本的な医療の提供と健康の管理をしているが、専門外の特別な医療については、家族および主治医との連携を密にし、滞りのない受診支援を行っている。	事業所敷地に隣接して運営母体のクリニックがあり、提携医として健康管理にあたっており、安心感が強い。かかりつけ医の変更は強制しておらず、これまで通りの馴染みの医療機関を使う利用者も多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付いたことはすぐに報告して対応していおり、十分な協働はできていると考える。また、看護師を通じて併設クリニック医師の意見を求めることもできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	診療情報の交換、看護サマリーや介護サマリーの交換や訪問しての対面による依頼等関係の構築は密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	懸念される方には、併設クリニック医師同席で、家族の意向を早い段階に確認している。必要があれば書面による意思表示を依頼し職員への周知も行っており、チームによる支援はできていると考える。	母体のクリニックを経由して利用開始となるケースが多く、持病として内臓疾患を持っている利用者が多い。終末期のケアを希望する利用者・家族もあり、家族の希望を早い段階から聞き取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設クリニックへの連絡を優先して対応を依存しており、また看護職も常勤でグループホームに居るので、介護職にはAEDの使用訓練を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	市の防災訓練への参加や消防署指導の消火・避難訓練などを積極的に実施している。また運営推進会議に自治会長も参画していただいていることもあり、協力体制は構築されている。	消防署の立ち会いの下、防災（避難）訓練を実施している。法人理事長と事業所管理者の自宅が隣接地に立地することから、夜間災害に対しての安心感は高い。夜間を想定した避難訓練の実施はない。	関係者が事業所周辺に居住するという安心感はあるが、夜間災害では地域住民の協力が不可欠。グループホームと連携しての夜間想定訓練の実施を望みたい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できるる限りの配慮を心がけているが、自信を持つまでには至っていない。今後は、関連の講習会等に参加していくことなどで正誤を計る知識の獲得に努めたい。	女性職員による身体介護を中心に支援している。職員の温かい声かけに、利用者の精神状態も安定した状態を継続している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望の表現は自由に行っていただいているが、多くはそれに応えられていないのが現状。体制や方法を見直して、希望に沿えることが増えるよう努めたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り意を汲んで希望に沿いたいと思うが、食事・入浴・就寝などの大枠についてはやむを得ず合理性を優先させてしまっているが、少しづつ希望の支援に努めていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣などは、今日はどれを着るかなどの会話で行っている。理美容や季節ものの買い物などもお勧めし、希望されればお連れしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在入居の方の身体等能力では、職員との協働による食事準備は不可能であるので、職員により一律に準備している。なお、昼と夕の副食は外部委託である。	ご飯と汁物は事業所の厨房で作っているが、副食は外部からの取り寄せとなっている。胃ろうでの栄養摂取している利用者へは、体調を見て口から摂取する機会を作っている。	副食が外食業者のプラスチック容器で配膳されており、和やかな場の雰囲気にそぐわなかった。銘々の食器や小皿に移し替える等の一手間がほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師の管理と併設クリニック医師の指導を得て行えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できていない。必要性は十分に感じているので、職員の増員を受けて実施に向けたい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要最小限、夜間のみ紙パンツ着用をお願いすることはあるが、プライドや希望を優先しておしめなどを強制することはない。失敗は職員が掃除するなどでフォローしている。	排泄チェック表を記入して、排泄の有無を確認している。また、失禁が多い利用者でも本人の意思を尊重して、布パンツでの支援を行っている事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師の管理と併設クリニック医師の指導を得て行えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる限り意を汲んで希望に沿いたいと思うが、食事・入浴・就寝などの大枠についてはやむを得ず合理性を優先させてしまっているが、少しづつ希望の支援に努めていきたい。	入浴日を設定して、安全な入浴の支援を行っている。ホームの業務体制を整えるために、大きな枠に区切って生活を支援している。	職員の業務体制が整備されれば、さらに利用者への柔軟な対応も可能となるであろう。今後の取り組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないようにだけは注意を払わさせていただいているが、できる限り自由に過ごしてもらっている。朝食後の二度寝なども、ときに応じてしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何の薬かの説明は折々にしているが、理解いただくのは難しい。自己管理や服薬自立は困難であるので、看護師を中心とした職員による管理と支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や嗜好品等の把握には努力している。情報を生かすため、今後は、ボランティアなどの力を借りるなどの工夫をしていきたいと考える。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿っての外出は、現実的には十分な対応はできていない。家族やボランティアを含む地域の人々との協力体制構築を、今後計画していきたいと考える。	天気の良い日には近隣を散歩に出かけている。重度化している利用者も多いために、全員で出かけることは困難である。	個々が自由に外に出る環境を整備することは、地域との連携にもつながるであろう。利用者が気軽に外出することで、地域の方との交流が深まることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として職員が管理しているが、折々に預かっている旨は伝えている。ただ、年齢や疾患によってか、所持意欲の低い方が多いので、購入希望については敏感に感じ取って叶えてえいきたいと考える。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙をもらうことはあるが、こちらからの行為は求められたことがない。求められれば応えていきたいと考える。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な臭いや汚れには、全職員で敏感に対応している。以前、床にきしみがあったことがあったが、すぐに業者に依頼して修理した。季節感は、クリスマスや雛祭り等々の行事を行ったり、敷地内の畑へ出掛けて知っていただいている。	食堂兼居間は光が差し込み、明るい空間になっている。窓から見る景色は緑が美しく、見晴らしがよい。ホームの紹介や、利用者の紹介が掲示してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に工夫をしてはいないが、思い思いの場所でくつろいでみえる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に持ち込みの希望が出たことがないので配慮したことはないが、現在のところ制限をしたことがなく、部屋は個人の思いで整理整頓されている。	ベッドや家具は備えつけであり、自宅から持ち込まなくても良い利便性がある。また、洗面所が各居室に設置してあるために、利用者にも使い勝手が良い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の見守りが受けやすいところやトイレに近いところ等々、部屋割りは、その方の状態や希望にできる限り沿ったものにしてあり、自室を分かり易くするため、利用者さんといっしょに名札を作ったりした。		

（別紙4（2））

事業所名　認知症対応型共同生活介護　恵みハウス

作成日：　平成　23年　6　月　17　日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26 11	職員１人ひとりにはすばらしい個性や特性があり、それらを惜しげなく発揮して組織の発展に寄与してもらっているが、横のつながりがまだ未整備なために散発的・瞬間的な成果になりやすくなっている。	個の持つ能力や知識を組織が吸い上げ、またまとめ上げて、普遍的な組織力へと再構築を図る。	日系の外国人とのチームケアのため日本人の常識や考え方の違いを理解しながら同じ目標に向けてケアに当たれるようにしていく。	６ヶ月
2	35	夜間を想定した防災・避難訓練が実施できていない。無洗米や水・お茶の備蓄はしているものの、自治会や市の支援策と相対させたとき、どこまでの自己努力をすべきなのかが把握できていない。	最善の自己防衛は策定しておくものの、自治会ならびに地域の支援は不可欠であるので、消防法に準拠して実施する避難訓練に、地域の方々の参加協力を求める。	消防署から来ていただき、火災報知機の操作や消化器の使用方法を確認するとともに地域の防災訓練に施設から参加していく。	６ヶ月
3	1	理念や業務の遂行状況等を客観的に把握する手段ならびに方法を持たないので、達成していても無駄に悩んだり、不足していてもあぐらをかいていたりしている。	理念である隣人愛をスタッフ間で意識し合う。	日々のミーティング、申し送りの中で理念にもとずいた現場のあり方を管理者ともども話しあっていく。	６ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注）項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。